

2010
Vol.11
THE BSSC JOURNAL
通巻11号 2010年6月11日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞

Biwako Seikei Sport College

THE BSSC JOURNAL

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える

©びわこ成蹊スポーツ大学新聞編集部

発行=びわこ成蹊スポーツ大学メディア研究会 〒520-0503 大津市北比良1204番地

<http://www.bsscjournal.net/>

緑豊かな 比良キャンパスにようこそ

びわこ成蹊スポーツ大学が迎えた今年の新生は322人。4月2日の入学式を終えたフレッシュマンは、5日から開学以来の伝統行事になったフレッシュマンキャンプを体験した。湖畔にテントを張り前半8クラス、後半8クラスに分かれてASE活動、クラス別レクリエーション、登山、キャンプファイアーなど3泊4日の自己鍛錬に挑んだ。

フレッシュマンキャンプは

- ① 規律正しい生活を送る
- ② 仲間(他人)のことを考えて行動できる
- ③ 環境に配慮した生活を送ることが出来る
- ④ 自然のなかで過ごすためのキャンパススキルを身につける

という4本柱を掲げ、新入生にとっては心身鍛錬の第一関門。テレビもない、携帯もない、ガスも電気もない生活体験で322人が何を考え、何を感じたのか。フレッシュマンキャンプで私は考えた」の課題レポートから拾ってみた。

声を掛け合い、励ましあつて、目指せ頂上へ

フレッシュマンが集う

フレッシュマンキャンプで強く印象に残ったプログラムが2つある。ひとつは青柳浜であったASE活動だ。初めは何をするのか、まったく見当がつかなかったが、仲間とゲームをするうちにその意図や趣旨がわかるようになった。

どのゲームにも当てはまるのは班のメンバー全員が助け合って協力し、知恵もみんなを出し合うこと。メンバー一人ひとりの個性を理解しそれを活かすことも大切。「ひとりではみんなのために、みんなは一人のために」の精神を学んだ。これはサッカーなどチームスポーツにも活かせる。もうひとつは登山からだ。険しい山道に苦しまれ、強風や寒さも辛かった。それでも山頂に着いたとき、あきらめずによかったと素直に思った。人生も同じ。厳しいことや辛いこともあるが、負けずに1歩1歩進むことによって、山頂のような高いところに到達できる。大事なことは何事もあきらめずに続けること。大学で充実した4年間を過ごすためには、何事もあきらめないことを誓った。

(1年 久保田高行)

フレッシュマンキャンプを終えて、大きまとめると4つのことを学んだ。1つ目は協力。食事づくり、テント設営、ASE活動、登山、撤収作業など仲間との信頼、責任感が生まれ、知恵や意見を出し合うことで積極性も身についた。2つ目はコミュニケーション能力が向上した。携帯電話を預けられ、会話でしかコミュニケーションがとれなかった。携帯やメールなんかより直接話した方が気持ちも伝わりやすく、仲よくなりやすい。話すことの中でも基本の「あいさつ」がもっとも大切だと思った。3つ目は普段の生活がいかに豊かなかがわかったこと。キャンプにはテレビ、インターネット、電話、ラジオなどあって当たり前のもので一切ない。なんでも便利な世の中なのに、生活をしていくのか、と思うと、その便利さがかえって困ることになると感じた。4つ

目は親へのありがたさである。いつも食事をつくってもらい、洗濯をしてもらい、さまざまな面で支えてもらっている。キャンプで規則正しい生活を送り、環境に配慮した生活を過ごし、キャンパススキルを身につけることができた。キャンプに携わった先生、補助して下さった先輩方、ありがとうございました。

(1年 稲生泰章)

え、みんなが自ら学ぼうという気持ちでまわったからだ。登山も険しくても簡単に登っていきけるものではなかったが、班のみんなの声を掛け合ったり、助け合ったりが自然にでき、無事に戻ってきたときの達成感をみんなで感じる事ができた。フレッシュマンキャンプは確かに不安だらけだったけど、最初から何もない状態であるからこそ意味があり、これからの大学生活における基盤になると思った。キャンプで学んだ自ら一歩を踏み出していくことを活かして大学生活の幅を広げていきたい。

(1年 内藤亜沙奈)

ASE活動は仲間の絆を深め合う

なれぬ手つきで、みんな助け合ってテントを張る



1万m競歩で快進撃のびわスポ勢。優勝した丸尾(右)3位内田(手前)



女子棒高跳びで圧勝した的場

躍進陸上部 待望の1部昇格

より速く、より高く、より強く――

開学以来の悲願だった陸上部男子が関西学生対校選手権の1部昇格を決めた。

第87回関西学生対校選手権は5月6日の男子ハーフマラソンを皮切りに5月14、15、20、21日の日程で熱戦を繰り広げ、男子2部のびわスポ勢は、1万m競歩で1年の丸尾知司が44分46秒93で優勝し3位に内田恵治(3年)が入るなどトランク種目で活躍が目立ち、対校得点争いで2部準優勝を決めて1部に昇格した。苦節8年。先輩が積み続けた1部の壁に今年は部員107人の総力を結集して大会に挑んだ。快進撃の口火を切ったのは、女子棒高跳びに出場した的場達(3年)だった。9人が出場したが、的場はただ一人、3m40からスタートし2回目にクリア。この段階で優勝争いは3人に絞られ、的場が3m50を1回目でクリアした後、ライバル二人はこの高さを跳べずに失敗。優勝を決めた女王は、3m60を2回目に成功させ、さらに10cm上げた3m70に挑んで3回目にクリアした。この優勝に男子勢がハッスル。1万m競歩の1、3位と上位を占め、100mは塩山昌弘が10秒86で2位に入っ

たほか400mでは田中竜太、800mでは佐治祐貴が2位に入るなどコンスタントに対校得点を重ねた。また、フィールドでは砲丸投げで南部祐斗が自己ベストを大幅に更新する12m59で4位に入った。2日間ですべて10種競技でも森本隆太が2位、小早川理が4位、池田佑平が5位に食い込む合計16点をあげて、混成の部総合得点で初優勝するなどの種目にも平均した強さを発揮した。

2年連続で西日本大会の舞台 女子ソフトが3位の健闘



西日本大会出場を決めて全員集合

今回のリーグでは3部3位。昨秋のリーグと同じ結果に終わった。1年前の春、先輩たちが築いた2部2位、1部昇格という目標には惜しくも届かなかった。しかし、このチームになってから丸一年、何も変わらなかったわけではない。個性が強いメンバーが揃ったこのチームでは、やはり衝突は避けられない。衝突したとき、自分たちで話しあい、どうにかチームをよくしようという気持ちがあったからこそ、少しずつチームがまとまってきた。飛び抜けた選手がいなかったため、一人の個人プレーでは、どんなチームにも勝てない。チーム全員で繋いで

1点、1点を積み重ねていくのが理想の勝ち方だ。このリーグの大きな鍵を握った大阪体育大学戦では、最初リードを許したが、すぐに反撃して取り返し、取られたら取り返す。繋いで繋いで6回に5-5の同点に追いついた。だが、追い上げムードもここまでで最終回、満塁ホームランを浴び、11-5で勝利から突き放された。終わってみれば6点の大差がついたが、今までの戦いでは、部別リーグで1部から落ちてきたチームにコールド負けすることが多かった。その教訓から今季は自分たちの課題をしっかりと認識した練習に取り組み、練

習試合も以前より積極的に行った。その成果が出て、このリーグではレベルの高いチームともいい内容の試合ができるようになった。

宮崎でこの8月に行われる西日本大会は、出場枠が増えたため、昨年に続き出場権を得ることができた。昨年は初戦で敗れたが、その果たせなかつた「西日本で一勝」を目標に、チーム一丸となって繋ぐプレーに徹する。みんなの合言葉は「宮崎の舞台で花を咲かせよう」。

(女子ソフトボール部主将 3年上原奈恵)

春季部活成績表

硬式野球部 京滋大学野球春季リーグ戦

びわスポ大	1-2	京都学園大学	●
	1-2	京都学園大学	●
	0-2	大谷大学	●
	9-4	大谷大学	○
	0-7	佛教大学	●
	1-8	佛教大学	●
	3-0	花園大学	○
	0-1	花園大学	○
	6-6	花園大学	△
	2-9	花園大学	●
	5-6	大谷大学	●
	5-4	京都教育大学	○
	2-4	京都教育大学	●

関西サッカー社会人リーグ

びわスポ大 HIRA	1-3	アイン食品	●
	0-3	AS.Laranja Kyoto	●
	0-6	三洋電機洲本	●
	2-5	奈良クラブ	●
	2-1	ルネス学園甲賀	○
	0-5	阪南大クラブ	●
		バンディオンセ加古川	

学生サッカー Iリーグ前期

<SPIRITS> Bブロック

びわスポ大	3-4	大院大Ⅱ	●
	1-0	関大RED GROW	○
	2-0	阪南大ZER☆	○
	1-0	関学大Ⅱ	○
	3-0	産大Ⅱ	○
		同大Ⅱ	
		大立	
		大立	
		大立	

<magics> Cブロック

びわスポ大	0-1	同大Ⅰ	●
	1-0	産大Ⅰ	○
	1-0	びわこdreams	○
	0-0	大教大Ⅱ	△
	1-0	京産大	○
		立命大Ⅰ	
		天理大	
		立命大Ⅰ	
		天理大	

<dreams> Cブロック

びわスポ大	1-0	立命大Ⅰ	○
	3-0	天理大Ⅰ	○
	1-3	同大Ⅰ	●
	0-1	びわこmagics	●
	1-1	産大Ⅰ	△
		大教大Ⅱ	
		京産大	
		京産大	
		京産大	

陸上競技部 関西学生対校選手権大会

男子2部	1位	丸尾 知司	10000mW	44:46.9
	3位	内田 恵治		45:28.1
	6位	中野 勇也		46:44.4
	2位	佐治 祐貴	800m	01:52.5
	6位	福岡 奨朗		01:57.3
	2位	塩山 昌弘	100m	10.86
	4位	南部 祐斗	砲丸投(7.260kg)	12m59
女子	1位	的場 遥	棒高跳	3m70

バレーボール部 関西学生春季リーグ

<男子>

びわスポ大	1-3	天理大学	●
	3-1	同志社大学	○
	3-1	京都産業大	○
	0-3	龍谷大学	●
	3-2	佛教大学	○
	3-1	関西大	○
	2-3	京都創生大	●
	0-3	天理大学	●
	1-3	龍谷大学	●

<女子>

びわスポ大	1-3	天理大学	●
	0-3	神戸学院大学	●
	1-3	大阪大谷大学	●
	0-3	大阪体育大学	●
	3-0	姫路獨協大学	●
	3-0	滋賀短期大学	○
	1-3	関西大	●
	0-3	関西大	○
	3-1	姫路獨協大学	○

バスケットボール部 関西学生選手権大会

<男子>

2回戦	びわスポ大	0-0 (棄権)	神戸芸術工科大学	○
3回戦		76-98	京都産業大学	●

<女子>

3回戦	びわスポ大	86-39	追手門学院大学	○
4回戦		40-72	関西外国語大学	●

柔道部 京都学生大会

<男子>

予選リーグ1試合目	龍谷大学	1-5で敗退	予選リーグ3位
予選リーグ2試合目	京都産業大学	1-3で敗退	
予選リーグ3試合目	京都大学	6-1で勝利	

<女子>

決勝リーグ1試合目	同志社大学	0-1で敗退	決勝リーグ6位
決勝リーグ2試合目	龍谷大学	0-3で敗退	
決勝リーグ3試合目	京都産業大学	1-2で敗退	
決勝リーグ4試合目	立命館大学	0-3で敗退	
決勝リーグ5試合目	佛教大学	0-1で敗退	

軟式野球部 京滋春季リーグ戦

びわスポ大	0-8	京都文教大	●
	5-4	滋賀大	○
	10-0	滋賀大	○
	6-1	京都医療科学大	○
	0-7	滋賀県立大	●
	1-4	京都文教大	●
	0-2	京都医療科学大	●
	6-3	滋賀県立大	○

ソフトボール部 春季関西女子リーグ

1次予選リーグ	びわスポ大	13-1	大阪府立大学	○ (3回コールド)
		10-1	奈良教育大学	○ (3回コールド)
2次予選リーグ (2部)	びわスポ大	5-11	大阪体育大学	●
		0-10	天理大学	●
		10-5	四天王大学	○
		8-0	兵庫教育大学	○



白木監督は「記録が出な
く、実力勝負だからいかに鍛えてきたかが、タイムに表れる。関西インカレの団体で4位までに入り、インカレの団体出場を実現させた」と張り切る。



言葉は違っても、男女とも信念や目指す方向は同じ。5月末から始まる西日本大会では、彼らはさらにまぶしく光り輝くだろう。コート駆け回る清々しき紳士、淑女たちに期待したい。

(競技スポーツ学科
藤井あすか)

精彩を欠いたびわスポイレブン



巻き返しは後半戦に

1らが着実に力をつけ、チ

関西学生サッカーリーグは前期の終盤を迎えたが、主力選手が卒業でこっそり抜けたびわスポは、9節を終えて3勝4敗2分け(勝ち点11)で8位と低迷した試合が続く。守備の要CB内野貴志が左足を痛めて戦列を離れ、攻撃陣もFW平野甲斐の穴を埋める逸材に欠けて得点力が落ちた。新旧交代が思うように進んでいないイレブンにとって

残り2試合に連勝し9月からの後期に巻き返しをかける。9試合を終えて得点10失点16。昨年のユニバーシアード代表にも選ばれた内野が今季1試合に出場しただけで、守備の不安がそのまま失点の多さにつながっている。とくに第2節の同大に1-4で敗れた後、攻守に精彩を欠いて関大に0-3、阪南大にも1-4と鹵

2010年度 第88回 関西学生サッカーリーグ(前期)星取表 (1部リーグ) 第9節終了時点 [勝ち点 勝=3 分=1 負=0]

順位	関学大	関西大	立命大	阪南大	大院大	同大	桃山大	びわ大	大産大	近畿大	関国大	甲南大	勝	負	分	得点	失点	差	勝点
4	関学大			1-3 (0-1)	3-1 (0-1)	4-5 (2-3)	2-1 (0-1)	1-1 (0-0)	3-2 (1-1)	0-1 (0-0)	2-1 (1-0)	3-0 (1-0)	5	3	1	19	15	4	16
6	関西大			3-4 (0-0)		2-2 (2-2)	0-1 (0-0)	3-0 (1-0)	1-0 (1-0)	2-0 (2-0)	6-1 (3-0)	2-4 (2-2)	4	3	2	19	12	7	14
2	立命大				1-1 (1-0)	2-0 (0-0)	1-1 (1-1)	0-1 (0-1)	1-0 (0-0)	1-0 (0-0)	7-0 (2-0)	4-1 (3-0)	5	1	3	17	4	13	18
1	阪南大			3-1 (1-0)	4-3 (0-0)		3-0 (1-0)	4-1 (2-0)	4-0 (2-0)	3-0 (0-0)	4-0 (3-0)	2-0 (0-0)	9	0	0	29	6	23	27
9	大院大			1-3 (1-0)		1-1 (0-1)		2-2 (1-2)	3-3 (1-1)	0-3 (0-1)	2-1 (0-0)	2-0 (0-0)	2	4	3	14	18	-4	9
5	同大			5-4 (3-2)	2-2 (2-2)	0-2 (0-0)	0-3 (0-1)			1-2 (0-1)	3-1 (3-1)	2-1 (0-0)	5	3	1	20	17	3	16
7	桃山大			1-2 (1-0)	1-0 (0-0)	1-1 (1-1)		3-2 (2-1)	1-3 (1-1)			3-1 (1-0)	4	4	1	14	12	2	13
8	びわ大			1-1 (0-0)	0-3 (0-1)	1-0 (1-0)	1-4 (0-2)	2-1 (2-1)	1-4 (0-2)			2-0 (0-0)	3	4	2	10	16	-6	11
10	大産大			2-3 (1-1)	0-1 (0-0)	0-1 (0-0)	0-4 (0-2)	3-3 (1-1)		0-3 (0-1)	1-2 (0-0)		2	6	1	9	18	-9	7
3	近畿大			1-0 (0-0)	0-2 (0-0)	0-1 (0-0)	0-3 (0-0)	3-0 (1-0)	2-1 (1-0)	1-0 (0-0)	1-0 (0-0)		6	3	0	10	7	3	18
12	関国大			1-2 (0-1)	1-6 (0-3)	0-7 (0-2)	0-4 (0-3)	1-2 (0-0)	1-3 (1-3)	2-1 (0-1)			1	8	0	7	29	-22	3
11	甲南大			0-3 (0-1)	4-2 (2-0)	1-4 (0-3)	0-2 (0-0)	0-2 (0-0)	1-2 (0-1)	1-3 (0-1)	0-2 (0-0)		1	8	0	7	21	-14	3

※ () 内は前半の得点

飛躍のシーズン目指して 張り切る競泳陣

念願の1部昇格から1年。水泳部・競泳陣にとって今季は「勝負の年」になる。1部残留が大きな目標だが、実力をつけた選手らは「二人でも多くインカレ決勝へ」を掲げて水しぶきを上げる。

北京五輪のメドレーリレーで銅メダルを獲得した宮下純一(ホリプロ)を指導

した白木孝尚講師(競投スポーツ学科コーチングコース)の「量より質」の指導で実力をつけ、昨年7月の関西学生選手権で男女そろって1部へ昇格した。今季は昨年の29人を上回る34人の大世帯になったが、「持久力とキックの継続をテーマに全員が取り組み、4月の日本選手権には背泳ぎ

の横江諒一、平泳ぎの佐藤純一郎、女子背泳ぎの辛島亜由子が出場。100m背泳ぎで準決勝に進出した横江の12位(56秒70)が最高だったが、昨年までの「魔法の水着が規制されてタイムが伸びなくなったことを考えると、むしろ健闘した泳ぎだった。事実、5月の京都学生選手権では、横江が200m背泳ぎで2分5秒88の大会新を出し、辛島も200m背泳ぎで2分17秒79の大会新を出した。泳ぎこみに加えて腹筋、背筋を強化するコアトレで体幹も強化。週1回は午前、午後の2部練習でみっちり鍛えるというハードワークは全体のレベルアップにもつながり、女子自由形800mの平山絢子は自己記録を5秒近く縮める9分2秒58の自己新を出した。

白木監督は「記録が出な
く、実力勝負だからいかに鍛えてきたかが、タイムに表れる。関西インカレの団体で4位までに入り、インカレの団体出場を実現させた」と張り切る。

「完全燃焼」と「キラキラ」が 今年のキャッチフレーズ

今年のバスケット部は一味違う。去年までの結果重視から内容重視へと方針を変えての新たなスタート。男子部は「完全燃焼」、女子部は「キラキラ」という言葉

を掲げた。スコアの結果ではなく、自分たちの力を出し切った時の充実感に重きを置いた。結果を重んじないからといって勝負を捨て

たわけではない。自分たちの目標に向かってみんながそれぞれ力を出し切ることを勝利につながる。そう信じてのそれぞれの目標である。

4月末に行われた、全関西バスケットボール選手権大会。男子部も女子部も自分たちなりの結果を出した。男子は関西1部リーグ上位

関西学生サッカーリーグは前期の終盤を迎えたが、主力選手が卒業でこっそり抜けたびわスポは、9節を終えて3勝4敗2分け(勝ち点11)で8位と低迷した試合が続く。守備の要CB内野貴志が左足を痛めて戦列を離れ、攻撃陣もFW平野甲斐の穴を埋める逸材に欠けて得点力が落ちた。新旧交代が思うように進んでいないイレブンにとって

残り2試合に連勝し9月からの後期に巻き返しをかける。9試合を終えて得点10失点16。昨年のユニバーシアード代表にも選ばれた内野が今季1試合に出場しただけで、守備の不安がそのまま失点の多さにつながっている。とくに第2節の同大に1-4で敗れた後、攻守に精彩を欠いて関大に0-3、阪南大にも1-4と鹵

1ームに活気が始めているのは後半に向けての明るい材料。強豪関学戦では0-1の後半ロスタイムに松田のアシストからDF山本が

貴重な同点ゴールで引き分けに持ち込み、ライバル立命館もDF但馬が決勝ゴールを奪った。1、2年主体の途上段階のチームだが、

上昇ムードに乗れば、上位チームと遜色はない。「夏場をみっちり鍛えたい」とびわスポイレブンは巻き返しを誓っていた。

不況知らずのびわスポ大の就職戦線 右肩上がりで就職率アップ

就職課調べ(2010年5月現在)

業 種	人 数	就職・進路先
一 般 企 業	103	西日本旅客鉄道、ミキハウス、郵便局、但馬信用金庫、大阪トヨペット、ラウンドワン、セキスイハイム中部、スズキ自販、佐川急便、福屋工務店、スポーツ館ミツハシ、ヒマラヤ、乗馬クラブクレイン、ファイブM、アミティエ・スポーツクラブ、アルペン、つるやゴルフ、モリヤマスポーツ、リーフラス、グンゼスポーツ、ウエルネスサブライ、THINKフィットネス、フットネス21事業団
教 員	58	現役 : 3名(大阪市小学校、滋賀県特別支援学校、学校法人大原学園) 常勤 : 31名 非常勤 : 24名
公 務 員	8	大阪府警、京都府警、岐阜県警、大津消防2、滋賀県警、茨木消防、高槻消防、長崎県央地域市町村消防
進 学	21	京都教育大学大学院、奈良教育大学大学院、立命館大学大学院、福岡医療専門学校、滋賀医療技術専門学校、京都医健専門学校、関西医療学園専門学校、森之宮医療専門学校2、仏眼医療専門学校明治、東洋医学院専門学校、平成医療学園専門学校、日本競輪学校、佛教大学通信教育部 など

就職氷河期の再来といわれた09年度の就職戦線。就職率の全国平均が90割と厳しい状況のなかで、びわスポ大の4期生は全国平均を大きく上回る97・7割の高い就職率を達成。開学以来の就職率も1期生の93・1、2期生の94・8、昨年の3期生96・8割を上回る右肩上がりで企業の人事担当者らは「不況のご時世だからこそ、スポーツ大学生の明るさ、バイタリティに期待している」という声も聞かれる。

4期生の就職・進路状況は、一般企業が106人の

志望に対し就職者は144社で103人。教員採用も現役合格して3人だったが、常勤31人、非常勤が24人を数えた。警察、消防の公務員は8人で進学は大学院と専門学校を合わせて21人だった。

大学の就職活動からは「不況知らず」ともいえそうだが、3年秋から始まる就職活動に積極的に取り組む学生がふえ、またゼミ担当の教員もゼミ生の就職活動には積極的に支援していることも就職率の大幅なアップにつながっている。

就職活動

就活には頭と心の準備が大事



前向きに早く取り組むことを訴える吉浦君

大学生の就職活動に08年の世界同時不況が影響を及ぼしたことは確かだと思ふ。多くの企業が「誠に残念ですが、今年度の採用を見送らせていただきます」と採用ホームページに次々と発表する。そんな状況に置かれていた私は危機感を強く感じ「働く」ということを考えて、昨秋からエントリーに備えた。3年生の10月から4年生の5月上旬までが一般的に「大手」と呼ばれる企業が採用選考を行なう期間である。その半年間でほぼ自分の人生が決まってしまうのであれば、そこに向けて念入りの準備をしなければならぬと思った。

日本の政界がどう動いて、日本の経済がどういう傾向にあるのか、不況のなかでも業績を上げている業界、企業はどこなのか、そしてそれはなぜなのか。今まで考えたことのない政治や経済、国際社会といった分野に目を向けた。そして自分一人の考えではなく多くの

人に意見を求めた。企業で働く人々から身近な大学の教職員の方々にまで、「日本の社会で働く」ということを実践している人たちの声を聞くことでいろいろな情報、知識を得ることが大切だと考えた。自己分析をして自分をj知る。企業研究(業界研究)をして社会を知る。そして社会人としての一般常識。この3つはエントリーが始まる前にしっかり準備することが大切である。昨年の状況(内定者の8割が年内から活動を開始)から見ても早く行動を起こすことが良い結果を招いている。「買い手市場」不景気の就職活動は、その開始時期の早さが内定の成否を左右するようになってきている。だからこそ、就職活動というのは、これから社会に出る自分と真剣に向き合う良い機会だと思つて、前向きに早く取り組みることが大事なのではないか。

(競技スポーツ学科 4年 吉浦剛史)

国際化時代へ① WELCOME ケイトさん 豪州から初めての留学生がびわスポに



びわスポ生はエネルギーと話すケイトさん

初めましてー豪州のビクトリア大から留学生第1号として来日したケイト・シルベスターさんが4月の新学期からびわスポでキャンパスライフを楽しんでいる。地域スポーツコースの海老島教授、スポーツビジネスコースの小笠原教授らが中心になって進めている国際交流事業の一環で、ビクトリア大と交流協定を結んだのを機にケイトさんの留学が実現した。

ニュージーランド生まれのケイトさんは、高校時代に野外スポーツ、スポーツマ

姉妹交流のあった富山県に1年間の留学経験があり、富山で剣道と出会った。ホームシックにかかりかけていたころ、初めて剣道を見て、その気合いのすごさに驚いたという彼女は、豪州で腕を磨いて4段を取得し世界選手権の豪州代表にも選ばれた。大学で社会学を専攻し、博士論文として「日本女子の剣道」に取り組んでいる。論文研究が留学の大きな目的だが、びわスポではサッカーの実技や野外スポーツ、スポーツマ

びわこ成蹊スポーツ大学

〒520-0503 大津市北比良1204番地
【代表】TEL:077-596-8410 FAX:077-596-8419 E-mail:jim@bss.ac.jp



JR比良駅から線路沿いに徒歩約15分。JR京都駅よりJR比良駅まで約40分。

国際化時代へ② スペインのサッカー文化を肌で感じる留学生活



世界の頂点に立つといわれるスペインのサッカーリーグ。なかでも「芸術的サッカー」といわれるFCバルセロナに魅せられて昨年からバルセロナに留学した。中学、高校、びわスポ大でもサッカーに熱中したが、バルセロナほど市民みんながサ

ッカーに燃える街はないだろう。

私のホームステイ先は、FCバルセロナでアイスホッケーの用具係りとして働くホセ・ルイスさんの家庭である。一家を挙げてバルサファン。ルイス家には代々伝わるホームスタジア

ム・カンテノワの指定席(ソシオリ会員席)があり、毎週末のリーグ戦はルイス家と一緒にサッカー観戦に出かける。観客を魅了するスペクタクルなプレーに一喜一憂するが、みんな目が肥えていて、下手なプレーには応援するバルサの選手であるろうと容赦なくブーイングを浴びせる。逆にメッシやインiesta、チャビといったお目当てのスター選手が、すばらしいパス、シュートを見せるとスタジアム全体を揺るがすような拍手がわく。日本のリーグでは、プレーもさることながらまずお目にかかれない光景で、勝利すれば、翌日の地元の新新聞は7割ほどメスベースを割いてバルサを絶賛する。ルイス家もそうだが、大学や町のBAR(居酒屋)で出会う人たちの話題はもっぱらバルサのサッカーである。サッカー文化でひときくするのは、簡単だが、日本人にとってはバルセロ

ム・カンテノワの指定席(ソシオリ会員席)があり、毎週末のリーグ戦はルイス家と一緒にサッカー観戦に出かける。観客を魅了するスペクタクルなプレーに一喜一憂するが、みんな目が肥えていて、下手なプレーには応援するバルサの選手であるろうと容赦なくブーイングを浴びせる。逆にメッシやインiesta、チャビといったお目当てのスター選手が、すばらしいパス、シュートを見せるとスタジアム全体を揺るがすような拍手がわく。日本のリーグでは、プレーもさることながらまずお目にかかれない光景で、勝利すれば、翌日の地元の新新聞は7割ほどメスベースを割いてバルサを絶賛する。ルイス家もそうだが、大学や町のBAR(居酒屋)で出会う人たちの話題はもっぱらバルサのサッカーである。サッカー文化でひときくするのは、簡単だが、日本人にとってはバルセロ

ナで見聞きし、実際に触れるサッカーは、文化を通り越して市民の生活の奥深くまで入り込んでいる。文化というよりもサッカーが産み出したコミュニケーションの感覚だ。

留学8ヶ月の私の生活は、午前中がバルセロナ大学の語学コースでスペイン語を学ぶ。ドイツやオランダ、中国、韓国、米国など各国の若者が初級のクラスで学ぶ。長い昼休み(シエスタ)をはさんで午後4時ごろから今度はスペインの歴史、美術などの講義がある。言葉がわからなくても、先生はお構いなしに授業を進める。初めのうちはチャンパンカンパンだったが、少し言葉がわかるようになると興味もわく。睡魔との闘いを終えた講義のあとは、バルサや同じプロチームのエスパニョールの練習場へ足を運ぶ。ここでは6歳から18歳までの各カテゴリーの選手たちがプロを目指して英

才教育を受けている。どのカテゴリーのチームにも、監督とコーチ、フィジカルトレーナーがいて、そのきめの細かい指導を観察するのが、指導者を目指す私の日課でもある。

びわスポ時代、サッカー部の松田保監督の薦めでキッズプログラムのリーダーとして保育園や幼稚園でサッカー指導をやってきた。その経験を活かしてバルセロナでも在留邦人の子供たちを集めてサッカースクールの友人と一緒に開き、スポーツをする楽しさを子供たちに伝えている。大学でやってきたことが、日本から遠く離れた異国の地で活かされ、サッカーを媒体としていろいろな人との出会いもある。「サッカーをやっているよかった。キッズリーダーをやっているよかった」とつくづく思う。

(びわこ成蹊スポーツ大学 競技スポーツ学科 樋口健策)